



Until we are all equal



Plan International

乳幼児期の発育



2024年に得たエビデンスの概略

プラン・インターナショナルは、グローバル戦略: **立ち上げ、女の子たち**に基づき、人道危機への対応のみならず、6つの優先テーマ分野でのプログラム実施に焦点を置き、80超の国々で活動を展開している。

2024年末、私たちは活動対象国とプロジェクトから得た各テーマ分野のエビデンスについて、成果と評価、内部・外部による重要調査、年次報告書の数値やデータを含めた検証を実施した。本概要では、(特に子育てと幼児教育を中心とした)乳幼児期の発育について真に求められていることを、2024年に得たエビデンスから明らかにし、そこから学ぶべきこととともに、その一部をまとめている。

プラン・インターナショナルでは、すべての幼い子どもが十分にケアを受け、平等に大切にされて成長できる世界の実現に重点を置いて、乳幼児期の発育に取り組んでいる。中核となる重点分野は:

- ジェンダーの視点に立った子育てとケア
- 母親・新生児・子どもの健康と栄養
- 衛生
- 幼児教育

活動の詳細は [こちら](#) から



主要な洞察



- **乳幼児への支援は依然として極めて不足している。** 乳幼児期に始まる不平等が、最貧困層世帯や地方部で育つ子どもたちをさらに取り残していく。データが存在する国々では、順調に発育できない子どもは30%に上る。世界全体で子どもに対する公的支出は、生活全般にわたってあまりにも少額で、支給時期も遅すぎる。
- **家庭と家族環境は、幼い子どもの発育における不平等に取り組む上で重要な役割を果たす。** 子育てへの取り組みは有効であり、男性保護者の関与が、男女の保護者によるより良いケアの提供につながり、男女の保護者の関係性と乳幼児期の子どもの発育を改善させ得ることを、エビデンスは示している。深く根づいた考え方と社会規範に取り組むには、教育における遊びの重要性について、保護者とコミュニティを対象にした意識啓発と参加を継続的に呼びかける必要がある。
- **2024年のプログラム評価により、子どもの発育・子育て・ポジティブな家庭環境づくりに対する人々の理解を深める上で、男女両方の保護者が関与する重要性が明らかになった。** 各プロジェクトは、明確なジェンダーの視点を取り入れて設計され、多角的な戦略で展開されている。さらにより強いメッセージを届け、教育分野の活動に保健サービスや栄養プロジェクトとの連携など実際の支援を組み込むためには、施設やコミュニティという活動基盤の違いを越えた関係者間の協力が、実現の鍵となる。
- **また調査結果は、先頭に立って男性の関与をすすめていく上で、親族・コミュニティ指導者・宗教指導者・他のコミュニティ組織が果たす重要な役割を裏付けている。** 子どもの心身の発育に不可欠なポジティブな子育て・共に責任を担う意識を広める上で、こうしたひとりひとりが担う役割は極めて大きい。
- **私たちは、今後も広範なジェンダーステレオタイプの変革に向けて、一層注力し続ける必要がある。** 家庭内労働や意思決定に対する役割や責任等に関する規範とステレオタイプは今も根強く存在する。私たちは資金提供者やパートナーとともに、根深い規範や人々の考え方の変革の後押しとなる長期的なプログラムを継続的に提唱していかなければならない。



乳幼児期の発育に関するプランのグローバルな取り組み



860万人の女の子
の出生時の状況が改善



(年次報告、2023年7月～2024年6月)



2,990万人
の子どもと大人
に乳幼児期の
発育プログラムを提供

男性の育児参加

82%

のインタビューに回答した男性保護者が、過去1か月に最低2つの育児行動を女性パートナー同等/それ以上に行ったと回答



(4つのプロジェクトに参加した337人の参加者の観察データ)

乳幼児期の発育に関する提唱活動

乳幼児期の発育について分野横断的に**働きかけを行った成功事例が35件**あり、例えば:



法律・政策・規制・指針に関する**12**の変更・改善



既存の法律・政策・規制・指針の実施促進に関する**5**の実現



義務を負う主体または協力者によるプログラムモデルの導入・再現・拡大に関する**7**の前進

(グローバル・アドボカシー戦略に基づく年次報告、2023年7月～2024年6月)

喫緊の課題は何か 主な調査結果

乳幼児の支援は依然として極めて不足している。データが存在する国々では、順調に発育できない子どもは30%に上る¹。乳幼児期に始まる不平等が、最貧困層世帯や地方部で育つ子どもたちをさらに取り残している。世界全体で子どもに対する公的支出は、生活全般にわたってあまりにも少額で、支給時期も遅すぎる。近年、就学前教育への開発援助は増加しているものの、教育援助全体に占める割合は依然としてわずかで、2022年の教育に対する直接援助総額の1.7%に過ぎない²。

乳幼児教育を受ける子どもは順調に発育する可能性が高いが、質の高い乳幼児保育・教育を誰もが公平に受けるための支援がすすんでいるとは言えないのが実状である。2030年までに持続可能な開発目標の目標4.2の達成は、程遠い状況にある。初等教育開始前の1年間に教育施設に入って学習した子どもの割合は、2020年の75%から2022年には72%に低下した。

「社会は「遊び」という言葉を誤解し、それが教育ツールとして機能し得ることを理解していない可能性があります。そのため、社会全体の意識啓発は必須です」

教師、エチオピア

緊急時における幼児教育の優先度は依然として低い³。Play Mattersと連携した活動の一環で実施された調査でも、深く根づいた考え方と社会規範に取り組むには、教育における遊びの重要性について保護者とコミュニティを対象にした意識啓発と参加を継続的に呼びかける必要性が浮き彫りになった。

家庭と家族環境は、幼い子どもの発育における不平等に取り組む上で重要な役割を果たす。データが存在する国々では、最も裕福な世帯の子どもの7割以上が幼児教育と応答的保育(子どもの反応に対して子どもの感情をくみ取った反応をする保育方法)を受けているのに対し、最貧困層の世帯の子どもでは半数に満たない⁴。

子育てへの取り組みは有効であり、男性保護者の関与が、男女の保護者によるより良いケアの提供につながり、男女の保護者の関係性と乳幼児期の子どもの発育を改善させ得ることを、エビデンスは示している^{5,6}。低・中所得国47カ国を分析した結果、幼児は知的発育を促すケアを父親より母親から受ける場合が多いことがわかった。平均して、母親から知的発育を促すケアを4つ以上受ける幼児は34.7%であるのに対して、父親からはわずか14.1%だった。この結果は、ジェンダーという社会的性別が、母親あるいは父親から、知的発育を促すケアを受ける子どもの割合にも影響していることも明らかにしている⁷。

女の子と女性は依然、過重なケア労働を負担している。プラン・インターナショナルの「現実の選択、現実の生活」調査では、調査対象の女の子が5歳の時から継続的に女の子の無償ケア労働について調査しているが、子ども時代から思春期にわたって女の子の意思決定と機会を決定づけていくジェンダー規範や考え方、ふるまいを女の子に植え付ける意味で、幼少期は極めて重要なことが、無償のケア労働を通して明らかになった。2024年の報告書「*時間がない: ケア労働におけるジェンダーギャップと、女の子への影響*」では、一般的に家庭内のケア労働は、女の子が成長するにつれてジェンダーに基づいて女の子が担うようになるが、こうした労働をするのは女の子であれば「当然な」ことだという刷り込みが、幼少期に行われることが明らかにされた。2024年の現時点でも、女の子の担うケア労働の責任は極めて重く、そのため、学業を修了する、将来のためにスキルを身につける、社会とのネットワークを築く、余暇を楽しむために使える時間を彼女たちは奪われている。

**「家にたくさん女の子がいるから
私の兄弟は家事をしません」**

Alice、17歳、ベナン



国内避難民キャンプにある子どもにやさしい空間で遊ぶ女の子たち、ソマリア地域
©Plan International

¹UNICEF. 2024. Global Report on Early Childhood Care and Education: The Right to a Strong Foundation.

²ibid

³Moving Minds Alliance. 2023. Born Learning: Expanding learning opportunities for the youngest children in crisis settings.

⁴UNICEF. 2024. Global Report on Early Childhood Care and Education: The Right to a Strong Foundation.

⁵Cuarteras, J et al. 2023. Family play, reading, and other stimulation and early childhood development in five low-and-middle-income countries. *Developmental Science*, Vol. 26, No. 6, e13404.

⁶Jeong, J., Sullivan, E.F. and McCann, J.K. 2023. Effectiveness of father-inclusive interventions on maternal, paternal, couples, and early child outcomes in low- and middle-income countries: A systematic review. *Social Science & Medicine*, Volume 328

⁷Kitamura, K., Cappa, C., Petrowski, N. et al. 2023. Gender Stratification and Parental Stimulation of Children: Exploring Differences in Maternal and Paternal Practices. *J Child Fam Stud* 32, 1411–1424.

新たにわかったこと 主な評価結果

2024年、4地域・15カ国で行われた13件の乳幼児期保育プログラムについて評価の振り返りを行った。

さまざまなプロジェクトを通して、保護者の関与が子どもの発育・育児・好ましい家庭環境づくりに関する理解(中には実践)の促進につながるということが明らかになった。各プロジェクトは、明確なジェンダーの視点を取り入れて設計され、特に男性の育児への関与に重点を置く等多角的な戦略で展開されている。だが、より強いメッセージを届け、親族の関与をすすめる、また、教育分野の活動に保健サービスや栄養プロジェクトとの連携など実際的な支援を組み込む上では、施設やコミュニティという活動基盤の違いを越えた関係者間の協力が、実現の鍵となることがわかった。

- **バングラデシュ**では、プロジェクト終了時には多くの保護者が、子どもの発育状態を各段階で知る大切さに理解を示したり、育児の実践法を説明できるようになった。子どもと遊ぶために時間を割く等、育児や家事に参加する父親の姿が多く見られるようになった。女性たちは話し合いの中で、男性が子どもの発育に関与するようになって、子どもの心身の成長を支えるためにはケアと健康的な環境の提供が大切なことを受け入れるようになったと述べた。同プロジェクトでは、こうした成果を広げるために、動画上映・看板・歌・演劇・父親と祖父母のためのカフェと研修・地域の宗教指導者の参加等、さまざまな戦略を用いた。
- **タンザニア**では、「LEARN Plus」プログラムの中の12週間の就学準備プログラムの一環として、子育てに関する全6回の勉強会を盛り込み、家庭で保護者が幼児教育をサポートするという前向きな変化がもたらされた。プロジェクトの中間時点で、プログラムに参加している子どもが読書・読み聞かせ・遊び等幼児教育の要となる活動を大人にしてもらえる可能性が著しく高まった。

- **複数国**で実施された「*Joining Forces for Africa*」プログラムを通して、子どもを育て、しつけ、教育するには身体的懲罰が必要だと信じる保護者の割合が減少した。同プロジェクトでは、3万4,000人超の保護者を対象に、暴力のない子育て等の取り組みを通じた子育てスキルに関する勉強会を開催した。

調査結果はまた、**親族・コミュニティ指導者・宗教的指導者・他のコミュニティ組織が重要な役割を担っていることを裏付けている**。彼らには、男性の関与とポジティブな子育てを先頭に立って促す力があり、子どもの心身の発育に不可欠な子育ての責任を共に担う意識を広める上で、こうしたひとりひとりの担う役割は大きい。例えば、バングラデシュとセネガルでのプロジェクトでは、叔父・兄弟・祖父など男性親族のサポートの増加が、出産したばかりの母親に保育に前向きに取り組む力を与え、母親と新生児のウェルビーイングを皆で支えていく上で非常に重要なことがわかった。

母親・新生児・子どもの健康と栄養に焦点を当てたプロジェクトでは、保健ケアを求める行動や母親と子どもの健康を支える正しい行いに関する知識について、数多くの指標で改善が見られる。例えば、グアテマラでは、適切な授乳方法に関する知識や5歳未満の子どもの保健サービス利用率が向上し、その結果、大多数の母親が5歳未満の自分の子どもの体重と身長が十分であると考えていることがわかった。危機下の食料需要を満たすために現金給付が行われ、受給者から評価された。子どもの発育を含めた世帯のウェルビーイング全体に確実に取り組む上で、現金給付を医療や教育等の他の支援サービスと連動させる取り組みは、好事例の1つである。しかし、評価では、根深い文化的信念、ジェンダー規範、特に地方部や支援の届きにくいコミュニティでは、母親および新生児と子どもへの医療サービスの質と利用環境に関する問題が浮き彫りになり、未だ残る障壁も指摘された。

多部門による取り組みは、各コミュニティの相互に関連し合う多様なニーズに対応する上で、極めて重要かつ有益である。様々なプログラムで、子育て支援・食料安全保障・栄養補助・保健ケア・保護・幼児教育等、幅広い活動とサービスを提供するための取り組みが設計されている。この戦略は、支援全体に効果があり、家族とコミュニティの体制強化につながった。また評価では、各取り組みを対象コミュニティの社会・経済的・文化的背景に沿った内容にするには、包括的なニーズ分析と文脈の分析が極めて重要なことが明らかになった。例えば、ジェンダーの視点に立った子育て支援や母親の保健ケアを設計する際には、現地のジェンダー規範や保健システムの能力を考慮すること。これは、私たちの調査のいくつかの結果と一致しており、子ども・ユース・その家族・サービス提供者が持つ教育的・経済的・身体的・精神的等、様々なニーズを反映した支援が、緊急時においても重要なことが浮き彫りになった。

幼児教育推進員/教師の研修が、さまざまな国で幼児教育の成果向上に効果を上げている。2024年は評価対象が比較的少なかったが、得られた評価結果は好ましい兆候を示していた。例えば:

- **バングラデシュ**では、教授法とカリキュラムにジェンダー平等を促すための研修と支援と実施したところ、乳幼児保育推進員の85%超が、子どもが学習の中心となる機会を提供するようになった。
- **タンザニア**で、「LEARN Plus」の一環として、コミュニティの教育支援員が地域の小学校と連携して定例会を週1回開いて勉強会を重ねた結果、子どもの発育に前向きな成果が得られた。プロジェクトの中間時点で、プロジェクトに参加している子どもは、不参加の子どもと比べ、発話で使用される語彙力・計算能力・運動能力等、様々な発達領域ではるかに優れた成果を示した。

- **カンボジア**では、指導と学習に関する研修と並行して、コミュニティの連携づくりと乳幼児教育に関する提言を後押しするプロジェクトを実施。その結果、指導と学習環境の改善に加え、保育所の利用率も向上した。特にフォローアップ講習の実施に対する評価は高かった。

乳幼児保育に関する働きかけについて、大きな成果もいくつか得られた。例えば、人権理事会は2024年、これまでの取り組みに基づき、乳幼児教育・無償の就学前教育および無償の中等教育の権利に関する子どもの権利条約の選択議定書の策定に向けて、無期限の政府間作業部会を設置する画期的な決議を採択した。ドミニカ共和国・ルクセンブルク・シエラレオネの主導の下、私たちは他のパートナー組織と共に同決議の採択を求め、特に、議定書の策定に子どもが参加する重要性と、そうすることで女の子の権利と彼女たちの未来に対する効果が一層高まることを強く主張した。現状では、子どもの権利条約は幼児教育について言及していないが、同決議は、国際法の欠落部を埋め、全ての子どもが包括的な教育を受けられる世界を実現するための重要な一歩である。



コミュニティにある就学前の子どものための施設で楽しそうにお絵かきをする子どもたち、カンボジア
©Plan International/606 Digital

一層の注力が必要な部分

2024年に得たエビデンスは、乳幼児保育の分野で成果を得るためにはどこに投資を行いどのようにプログラムを設計するかについて、真に求められていることが何か、プラン・インターナショナルはもちろん、セクター全体に重要なメッセージを伝えている:

私たちは、広範なジェンダーステレオタイプの撲滅に向け、一層注力し続ける必要がある。家庭内労働や意思決定に関する役割と責任に関するものを含め、規範とステレオタイプは根深く存在する。各プロジェクトはこの分野である程度成果を得ているが、実態にはばらつきがある。私たちは、根深い規範や考え方の変革に向けた歩みを促す長期プログラムを求め、資金提供者やパートナーとともに提唱活動を継続していかななくてはならない。

私たちは、最も支援の手が届きにくい人びとのニーズに応えることを一層重視していく必要がある。特に、サービスにアクセスしにくい遠隔の地方部のコミュニティや、障害を持つ保護者や子どもの参加には厚い壁があり、男性の参加にも、雇用やその他収入創出活動との両立に困難が伴う場合もある。プログラムの対象範囲と効果を最大化するには、各地域の実状と優先度に基づいたプログラムになるよう、内容と実施方法の設計段階から対象集団との連携を重視する必要がある。

私たちは、土台となるエビデンスの構築を続けていく必要がある。2024年は、保健・栄養・発育状態について、知識や当事者の報告の不足を補える量のデータを安定して入手できていない。効果的なプログラム手法に関するエビデンスの土台を引き続き構築していくには、この分野への一層の注力が求められる。



Reshmin, 4歳(左側)と友人たち、子ども時代初期の発達センター、バングラデシュ
©Plan International/Mushfiqul Alam



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じているが、それが貧困、暴力、排除、差別によってしばしば抑圧されていることを知っている。そして、その影響を最も受けているのは女の子なのだ。

子ども、ユース、支援者、パートナーとともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまで、彼らの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え・対応できるようにする。私たちの広がり、経験、知識を活用し、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年以上にわたり、私たちは80カ国超ですべての子どもの生活を変えるために、決意ある楽観主義者を結集してきた。

皆が平等になるまで、私たちは止まらない。

Plan International
Global Hub
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

-  plan-international.org
-  facebook.com/planinternational
-  twitter.com/planglobal
-  instagram.com/planinternational
-  linkedin.com/company/plan-international
-  youtube.com/user/planinternationaltv

表紙写真: 40の子ども時代初期の発達センターを設置した、Good Startプロジェクト(Buen Comienzo)で、女の子たちが遊びながら学ぶ、ドミニカ共和国
©Plan International

免責事項: 本報告書で使用されている画像は、調査参加者のものではない。全ての画像の使用には、事前に同意を得ている。